

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	発達心理学Ⅰ						授業形態		講義	
科目コード	750025	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	石本 隆士								ICT活 用	○
授業概要	本科目の目的は、保育者・教育者に求められる発達心理学の分野の基礎的な学びを深めることです。幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導・支援の基礎となる考え方を理解します。 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的な理論を踏まえ、乳幼児期から学童期以降の段階ごとの発達を概観します。そして、運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達、障がいの支援等を、教育機関（小学校等）での指導経験も含む事例を通して、より具体的に学んでいきます。									
関連する科目	履修前に「子どもの発達と現代社会」を履修しておくことが望ましい。履修後は、「発達心理学Ⅱ」を履修することが望ましい。									
授業の進め方 と方法	基本的に講義を中心とし、パワーポイントや動画、インターネット上での意見の交換・共有、アンケートなど多様な手段を用いて展開します。 また、学びをさらに深めるために、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う経験を通して、深化を図ります。									
授業計画 【第1回】	発達とは何か 生涯発達の視点、発達段階、発達心理学の役割を学びます。									
授業計画 【第2回】	身体・運動の発達 身体・運動発達の順序や方向性、身体・運動発達と集団適応・自己意識を学びます。									
授業計画 【第3回】	感覚・知覚の発達 感覚と知覚の捉え方、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚のしくみと発達を学びます。									
授業計画 【第4回】	認知・記憶の発達 認知・記憶の生涯発達、認知発達理論、記憶のしくみと病理を学びます。									
授業計画 【第5回】	言語・コミュニケーションの発達 ことばの獲得、日本語の読み書きの発達、就学後の熟達と書き言葉を学びます。									
授業計画 【第6回】	社会・情動の発達 乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期における社会・情動の発達を学びます。									
授業計画 【第7回】	新生児期の身体・運動・情動の発達 大人を引きつける力、人との関係の始まり（共同注意と三項関係）を学びます。									
授業計画 【第8回】	幼児期の情動と社会性の発達 アタッチメント、幼児期の認知と思考、自我の発達と感情調整を学びます。									
授業計画 【第9回】	児童期の動機づけとモラルの発達 様々な動機づけの在り方、道徳性・規範意識を学びます。									
授業計画 【第10回】	学習理論とメタ認知 学習理論と条件づけ、メタ認知による俯瞰と行動の調整を学びます。									

授業計画 【第11回】	思春期の発達と多様性 身体の発達、自己意識、多様な性の在り方を学びます。
授業計画 【第12回】	青年期の社会性の発達 友人関係と親密性、自立、次世代への関わりを学びます。
授業計画 【第13回】	高齢期における心身の発達と支援 人生の成熟と振り返りを学びます。
授業計画 【第14回】	適応に困難さを感じる子どもの発達と支援 知的障がい・自閉スペクトラム症・LD・ADHD等の概要と支援の手立てを学びます。
授業計画 【第15回】	子どもの発達を見つめ支える実践 発達のアセスメント、事例研究、科目における学びの活用を考えます。
授業の到達目標	(1) 幼児、児童の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的な理論を理解し、生態学的な視点から周りの人との相互作用が発達にとって重要であることを説明することができる。 (2) 人の発達の特殊性や各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について理解し、人の発達過程を各発達期ごとに分断するのではなく、一生にわたる連続的過程として考えることができる。 (3) 動機づけや条件づけ等の心理学における学習理論を理解し、児童の心身の発達を踏まえた学習を支える指導・支援について考えることができる。
学位授与の方針 (DP) との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外学習【予習】	授業の中で、次回の授業内容・課題などを提示するので、各自で確認したり、調べたりしておくようにしてください。（1時間程度）
授業時間外学習【復習】	配布したプリント等を基に、習得した内容を整理したり、関連する資料・図書・文献等でさらに深めたりしておくようにしてください。（1時間程度）
課題に対する フィードバック	毎回の授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等は、次時の授業時間に解説します。
評価方法・基準	通常の授業に臨む態度と授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等の内容（30%）、及び最終試験（70%）で総合的に評価します。
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント等を配布します。
参考書	渡辺弥生・西野泰代編（2020）『ひと目でわかる発達 誕生から高齢期までの生涯発達心理学』福村出版（2,400円＋税） 関一夫・斎藤慈子編（2018）『ベーシック発達心理学』東京大学出版会（2,400円＋税）
備考	37年間、公立小学校に勤務（通常の学級の担任5年、通級指導教室担当14年、特別支援学級担任18年）。